

続・秋葉原の思い出

JA1WOB 齋藤章

前回の秋葉原の思い出は 1960～1970 年代でした。

1980 年代に入り、ほぼ無線は QRT 状態で秋葉原に行く事は有りませんでしたけれども、時々ジャンク屋の匂いを求めて、立川市の砂川にある杉原電子に行ってはアンテナのパーツや小物作りにトランジスタなどを仕入れていました。

1989 年に、本格的に再開局を考えて、最新の無線機状況を実機で調べるために、秋葉原へ向かいました。

秋葉原の駅を降りて、街を見渡すと、パソコンやゲームの店の看板があちこちにあり、ラジオや無線関係の店はなくなっただけで、やたらと、パソコンのソフマップの看板があちこちにあり、1号店から7号店くらいありました。

1970 年代とは、様変わりして、ラジオ・テレビ・オーディオ・無線機から、パソコンの街になっていました

まだ、Windows95 が発売される前でしたが、どこの店も PC-98 や DOS/V 機やゲームソフトがならべられていました。

老舗のトヨタも T zone に変わっていて、パソコン関係が大半で無線機は片隅にありました。

但し、ロケットは以前のトヨタの隣ではなく、何店舗かありました、その中のラジオデパート近くにあった、ロケットに入ると無線機やアンテナが所狭し、と置いてありました。

無線機は、全て小さくなり、FT101 が標準的な大きさの HF 機と認識していた、私にとってはカルチャーショックでした。

そして、周波数表示はギヤダイアルからデジタル表示が標準になっていました。

1987 年に公開された映画の「私をスキーにつれてって」で、スキー場で使うハンディー機は小さくてカッコ良くて、

私の知っている IC-2N の様な無骨なハンディー機とはまるで違うものでした。

そしてノーライセンスで使う人も多く、良く売れたのでしょね。

次に 144Mhz/430Mhz のモバイル機があり、数少なく HF の無線機や HF+50 Mhz の無線機がありました。

当時、最新機種 TS-680 や IC-726 に触れて、真空化時代の重厚な無線機とは違い、オシャレなデザインでデジタル周波数表示の、TS-680 で 7Mhz を



受信すると、安定したSSBの信号が受信できましたし、周波数表示も昔1kHz直読出来るFT101などのメーカー製の無線機が憧れでしたのに、最新では10Hzまで表示しているのは驚きでした。

また、バンド切り替え時に必ず行っていた、ファイナルの周波数調整も不要なのは驚きでした。技術の進歩は、まるで浦島太郎状態でした。

また、50MHzのモノバンド機は、少なくて、TR-9300やFT-690mk2などがありました、そして、FT-620やTS-600など比べると小さくなっていました。

アンテナ類は、144MHzと430MHzのモバイルホイップは何十種類もあり、モバイル無線が盛んなど感じました。

モバイルホイップや八木アンテナなどは、メーカー製を使う事は理解出来ていましたが、7MHzのダイポールアンテナまで、店にあったには、驚きました。

1995年の136万局のピークに向かって、開局数が増えていく時代でしたから開局が容易に出来る様になっていったのでしょね。

それにしても、パソコンの店とゲームソフトの店が多くありました。ラジオデパート近くにあった、ジャンク屋や測定器屋も、パソコンとゲームソフト店になっていて秋葉原はパソコンの街に変わっていました。

1980年に発売された、OKIのIF-800パソコンが職場に導入された頃は、電源をONするとBASICのプログラムが立ち上がり、入力待ちの画面となり。ダイレクトにコマンドを入れると直ぐに動き簡単な計算も即できるので、扱い易いのですが、仕事に使うとなるとそれなりの知識が必要でした。



データを管理するには、ファイルの構成を理解してレコードの管理もプログラム上で処理を行いうため結構大変でした。

また、内部メモリーも48KBと今にして思えば小さく、外部記憶も280KBの5インチFDDが2個という仕様でした。

仕事で管理資料のプログラムを作成すると、この非力なメモリーにいつも悩まされました。それでも電卓を叩いて紙に書き込むよりは、画期的な速さでプリンターから出力する事が出来ました。

パソコンの進化は激しく、8ビットだったCPUは16ビットになり、32ビット今は64ビットとなりました。FDDからHDDとなり、内部メモリーもKBか

らMBとなり最近では**GB**が当たり前となりました。

ソフト面では、BASICのみから、OSが組み込まれる用になり、CP/MそしてMS-DOSと変わり、**Windows3.1**や**Windows95**が出現してパソコンが身近なものになりました。

秋葉原もそれに応じて、常に最新のパソコンやOSやアプリケーションソフトに順応して発展してきました。

秋葉原のロケットは下見だけで、**IC-726**と**50MHz**の4エレHB9CVアンテナやローテータの**3**点は結構な荷物になるので、車で行っても近い新所沢にあったハムショップにて購入しました。

前回の「秋葉原の思い出」にある1960年から1970年代では、近くに部品を販売するジャンク屋はありましたが完成品を販売するショップは無く、秋葉原へ出向く事になりましたが、ハム人口の増加と共に羽村や国分寺の近隣ハムショップを利用する様になっていました。

それでも、再開局後の**1990**年代には、新年お年玉セールの記事をCQ誌を見て、朝4時起きして、一番電車に乗り**T zone**に向かいました、一番には並べませんでした、お目当ての**FT-690**

mk2を格安でゲットして、モバイルや移動運用のアクツブティアーが上がりました。

数年に一度は、秋葉原へ行き秋月電子やラジオストやラジオデパートを覗いては小物を購入していましたが、2000年代に入るとPCによるネット購入が多くなりました。

FT-817や**FT-857**は山形の某ハムショップでネット購入しました。

また、デスクトップPCもノートPCネット購入しました。

秋葉原に行って、現物を見て購入するのはワクワクします。しかし大きなものを電車で運んでくるのも、大変な事ですから、自宅に配達されるネット購入は大変便利です。

最近では、秋月電子の部品やアマゾンなどで電圧/電流計、**FT-8**のコントロールケーブルなどの小さなものまでネット購入する事が多くなりました。

便利な世の中になりました。

それでも、昔懐かしい秋葉原の雑踏とジャンク屋の匂いを求めて、数年に一度は秋葉原に行ってみたくります。



終わり